

# 各期の枠超え議論

## 中田商事で勉強会 関東からも参加

物流経営士有志

【三重】中部トラック総合研修センター（愛知県みよし市）の物流大学校講座を修了した物流経営士の有志が2月20日、中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）で合同勉強会を開き、トラック業界が抱える課題について意見交換した。

1月24日、名古屋市で行

われた物流経営士研修会の時、ケイエスドットビズ（奈良県河合町）の藤岡英樹社長が中田社長と話した際に、勉強会を発案した。中田氏が自社を会場に提供し、主に三重県や愛知県の修了生が参加。関東エリアからも、サンコー（栃木県日光市）の阿部光記社長が

駆け付けた。幹事役の藤岡氏が「物流大学校講座を修了し、トラック業界に対する意識が変わった。中田社長と相談し、勉強の場を設けることになった」とあいさつ。中田氏も「物流関係の様々な組織に参加しているが、他のメンバーから教えられ、気付

かされることが多い。業界は今後10～20年で大きく変

物流経営士が活発に情報交換



わる。有意義な勉強会にしよう」と述べた。

中田商事の亀井幸雄取締役による司会の下、一人ひとりが自社の取り組みと課題を説明。更に、労働力確保や今後の営業戦略を踏まえながら、物

流業界の在り方について議論した。

参加者は創業社長、2代目、3代目、中堅物流企業のプロパー管理職と立場も様々で、それぞれ異なる視点から活発な意見を交わした。

6時間の長旅を経て参加した阿部氏は、「これまで、物流大学の各期に分かれて勉強会を開いていた。今回初めて各期の枠組みを取り払ったが、良い情報交換とコミュニケーションができた。今後も続けていきたい」と話した。

（星野誠）